

令和2年10月1日

令和3年度 アルミニウム研究助成事業 公募要領

一般社団法人 日本アルミニウム協会

1. 対象とする研究助成課題

アルミニウム産業の需要拡大に役立つものを対象とし、別紙に記載する研究に関連するテーマを優先とします。

2. 応募資格

国内の大学、短大、高専、工業高校、公設研究機関に在籍する、応募時点で40才未満の研究者とします。

なお、博士課程後期在籍者、博士課程後期への進学確定者も対象としますが、指導教員の了解・承認を必須とします。

3. 助成期間

1 技術研究課題当たり2年間とします。

4. 助成金額

1 技術研究課題当たり80万円を助成いたします。

第1年度に50万円、第2年度に30万円を分割で支給します。

5. 研究助成金の使途

研究助成金の使途は、制限致しません。

使途報告は、会議費、設備費、消耗品費、交通費などの区分とします。

なお、所属機関・関係機関等のオーバーヘッド（間接費）は助成の対象となりませんので、ご注意ください。

6. 年間助成件数

来年度の新規採択課題件数は、10件とします。（最大12件）

7. 研究課題の応募

(1) 応募件数は、1件/人とします。

- (2) 過去の研究助成の申請・採択の実績に関係なく、同一研究者、同一課題でも申請が可能です。但し、採択期間中の応募を認めておりませんので、現在採択となっている研究者は、助成終了の翌年度より申請が可能となります。
- (3) 所定の申請書に必要事項を記入のうえ、事務局宛に郵送又は電子メールにより提出して下さい。
- (4) 応募期間は**令和2年11月2日から令和3年1月29日までの3カ月間**とします。

8. 研究助成課題の選考・採択

選考委員会にて選考し、令和3年3月末開催予定の理事会の決議にて採択が決定します。

9. 研究助成課題決定の通知

理事会終了後直ちに、事務局より電子メール又は書面、及びホームページでの公開をもって、その結果を応募者に通知します。

なお、採択の結果につきましては、理事会の後に開催されます記者会見の場で発表（プレスリリース）いたします。

10. 軽金属学会への入会

研究助成対象者は、採択された時点で軽金属学会の会員でない場合、入会の手続きが必要です。

11. 中間報告

第1年度の2月上旬までに、助成金の使途概況と当該研究の経過概要、並びに第2年度の研究助成継続希望の有無を、所定の用紙に記入して事務局宛に提出下さい。

12. 最終報告

助成期間中の研究成果を、当該年度の3月末までに書面で提出下さい。

また、研究成果は例年3月に開催している成果報告会で報告して頂きます。

13. 成果の発表

研究成果は助成期間終了後1年以内に、軽金属学会の研究発表講演会における発表を義務とさせていただきます。

また、研究成果は是非、軽金属学会誌「軽金属」または共同刊行誌「Materials Transactions」への論文投稿をお願い致します。

なお、成果発表においては「アルミニウム研究助成」によることを明記願います。

1 4. 研究助成の中止

助成対象者が応募資格を喪失した場合など、事情を聴取のうえで研究助成を中止する場合があります。

1 5. 特許等の取扱

研究助成により得られた成果について特許等を取得する場合は、予め事務局宛に書面をもって連絡をして下さい。

日本アルミニウム協会は、当該研究者が了解する適切な条件で、特許等の使用をお願いする場合があります。

1 6. 研究助成金の支払い

採択通知後3か月以内を目途に、申請研究者の所属機関に使用目的を明確にして、寄附金として支払います。

1 7. 提出先

日本アルミニウム協会 アルミニウム研究助成事業 事務局

E-Mail aljosei@alkyo.jp

〒104-0061 東京都中央区銀座 4-2-15 塚本素山ビル（7階）

電話 03-3538-0221 FAX 03-3538-0233

以 上

*：公募要領と申請書は弊協会のホームページからもダウンロードできます
<http://www.aluminum.or.jp/>

(別紙) アルミニウム研究助成事業募集に優先する研究分野

大分類	中分類	小分類
材料技術 組織制御技術	製錬技術	新製錬法
	合金技術	最適合金組成の予測
		枯渇元素の使用低減
		合金添加元素量の低減
	製造プロセス技術	結晶粒・集合組織制御
		組織（鋳造・塑性加工）の予測
		新鋳造法
		新塑性加工
		新プロセス（急速凝固）：鋳造厚 1 mm以下
		新プロセス（半熔融：DSSF）
	ナノテクノロジー	測定・評価法の適用
		各種特性発現への応用
	リサイクル リユース	回収技術
展伸材のリサイクル		
再生技術		再生アルミの付加価値向上
		複合材の再生
利用拡大技術	製品技術	ハイブリッド接合
		新接合法
		アルミ合金の機能めっき
		構造設計技術
		素形材の新高速成形法
		軽量構造材（ポーラスアルミ）
		エネルギー源
	性能向上	導電率の向上：銅合金並み
		耐食性の向上：チタン並み
		耐熱性の向上：300°Cで使用可能
		光学特性の向上：ガラス鏡並み
		放射線遮蔽性の向上：ステンレス並み